



「伝統工芸②」

【活用案】

金沢大学附属コラボレーション推進室 室長 福田 晃

1. 番組活用のねらい

工夫は非常に便利な言葉であり、多くの授業において用いる言葉の一つである。一方で、授業の中で表層的な言葉として終止していることも多い。工夫とは、いろいろ考えた上で、見出したよい手段のことである。伝統工芸における工夫には、職人の思いが必ずある。番組の視聴を通して、伝統工芸における職人の思いの一部に目を向けさせていきたい。

2. 展開例（7時間目／15時間）

	子供の活動や発言例	教師の支援や留意点
導入 3分 ↓	○これまでに調べた「伝統工芸」の内容を共有する。 ・5つの工程があったよ。 ・材料がはっきりしたな。	・現時点で分かっている「伝統工芸」について確認する。 ・「伝統工芸」をつくるうえで、職人には思いがあることをつかませる。
番組視聴 10分 ↓	○「伝統工芸②」を視聴する。 ・単なる作業じゃないんだね。 ・職人さんはすごいな。	・メモをしながら視聴させる。 ・番組内のキーワードを黒板に位置づける。
個人 10分 ↓	○番組で取り上げられている工夫の内容を確認する。 ・精度をあげるためなんだね。 ・職人の「～したい」が工夫なんだろうな。 ※端末があれば自由に視聴が可能	・工夫を表層的な言葉で終わらせないため、意味を確認し、黒板に位置付ける。 ・必要に応じて、関心度の高かった場面を再度視聴する。 ・職人の思いをつかませる。
全体 10分 ↓	○「伝統工芸」に再度目を向け、ワークシート②に取り組む。 ・～している部分も工夫なんじゃないかな。	・自分たちの学習の題材としている「伝統工芸」に目を向け、どんな工夫があるのか話し合う。 ・工夫から職人の思いに目を向けさせる。
ふりかえり 10分 ↓	○「伝統工芸」をつくる段階の工夫だと予想したことを確認する。 ・職人さんに聞いてみたいな。 ・予想はあっているのかな。	・あくまでも予想であることを確認し、探究意欲をくすぐる。 ・次時の見通しをもつ。

3. 準備する物

・ 伝統工芸品 ・ 伝統工芸品に関する資料 ・ タブレット端末

4. 活動にあたって（この授業に望むこと）

「伝統工芸」についてWeb資料や図書資料で調べる中で、材料や工程などに関する情報は比較的容易に収集することができる。だが、その裏側にある職人の願いや思いについては、目を向けることができない。それゆえ、本授業を通して、工夫の奥にある願いや思いに気付かせたい。そのうえで、あくまでもそれは予想であるということを確認し、実際にどうなのかを聞いてみたいという気持ちを醸成させていきたいものである。